

登園できない病気の一覧表

—学校保健法に準ずる—

堅田保育園

病名	潜伏期間	感染経路	主要症状	伝染期間	登園停止期間
1 麻疹	8~12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	・発熱、食欲不振、結膜や喉のカタル症状。 ・口腔内にケン粒大の白斑ができ、2~3日後に全身に発疹。	発熱出現1~2日前から発疹出現後の4日間	解熱後3日 主要症状がなくなるまで
2 風疹	16~18日	飛沫感染 接触感染	・発熱と共に全身に発疹が出る。 ・耳の後ろのリンパ腺が腫れる。	発疹出現の前後7日	主要症状がなくなるまで
3 水痘 (水ぼうそう)	14~16日	空気感染 飛沫感染 接触感染	・発熱、顔・手足・胸に赤い栗粒、頭髪の中にも発疹、水泡となる。	発疹が出現する1~2日前から全ての発疹が痂皮化するまで	発疹すべてが、かさぶたになるまで
4 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16~18日	飛沫感染	・発熱、耳たぶの下が腫れる。	明らかな症状を示す7日前からその後9日続く	耳下腺の腫れが消失するまで
5 インフルエンザ	1~4日	飛沫感染 鼻汁・つば	・発熱、くしゃみ、鼻づまり、咳、咽頭の腫れ、関節痛。	感染後約10日	発症後5日かつ、解熱後3日
6 咽頭結膜熱 (プール熱)	2~14日	飛沫感染 接触感染	・39度前後の発熱と咽頭炎、結膜炎を起こす。 ・結膜炎は伝染するので要注意の事。	咽頭から2週間、糞便から数週間排泄される	主な症状が消失してから2日を経過するまで
7 百日咳	7~10日	飛沫感染 接触感染	・感冒様症状からはじまる。 ・次第に咳が強くなり、1~2週で特異な咳発作になる。	感染力は感染初期(咳が出現してから2週間以内)	特異な咳が消失するまで
8 結核	2年以内特に6ヶ月以内に多い	空気感染 飛沫感染	・疲労感、咳、微熱、寝汗。	喀痰の塗抹検査が陽性の間	感染の恐れがないと認められた後
9 腸管出血性大腸菌感染症	10時間~8日	経口感染 接触感染 <small>患者や保菌者の便からの二次感染もある</small>	・激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。 ・発熱は軽度。	便中に菌が排泄されている間	感染の恐れがないと認められた後
10 流行性角結膜炎	2~14日	接触感染 飛沫感染	・白目、まぶたの裏側の結膜が腫れる。 ・目やにが多く出る。	初病後約2週間	感染の恐れがないと認められた後
11 溶連菌感染症	2~5日	飛沫感染 接触感染	・発熱、咽頭痛、細かい鮮やかな発疹が出る。	抗菌薬内服後24時間が経過するまで	抗菌薬内服後、24~48時間経過していること
12 ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルス等)	ロタウイルスは1~3日 ノロウイルスは12~48時間	経口(糞口)感染、接触感染 食品媒介感染	・発熱、吐気/嘔吐、下痢(黄色より白色調であることが多い)。 (合併症) けいれん、脱水、まれに脳症	症状のある時期が主なウイルスの排泄期間	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普通の食事が出来ること
13 RSウイルス感染症	4~6日	飛沫感染 接触感染 (環境表面でかなり長い時間生存できる)	・発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難(合併症) 乳幼児早期では細気管支炎、肺炎入院が必要となる場合が多い。	通常3~8週間 (乳児は3~4週間)	重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態がいいこと
14 マイコプラズマ肺炎	14~21日	飛沫感染	・乾性の咳が徐々に湿性となり、次第に激しくなる。解熱後も3~4週間咳が持続する。	臨床症状発現時がピークで、その後4~6週間続く。	発熱や激しい咳が治まっていること
15 手足口病	3~6日	飛沫感染 糞口感染(経口) 接触感染	・口内粘膜疹、手、掌、足底に水泡、軽い発熱。	唾液へのウイルスの排泄は通常1週間未満	主要症状が消えるまで
16 ヘルパンギーナ	3~6日	飛沫感染 接触感染 糞口感染	・突然の高熱(1~3日続く)、咽頭痛、口蓋垂付近に水泡疹や潰瘍形成。 ・咽頭痛がひどく、食事・飲水が出来ないことがある。 (合併症) 熱性痙攣、脱水症	唾液へのウイルスの排泄は通常1週間未満。糞便への排泄は発症から数週間持続する。	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普通の食事が出来、症状が回復した後
17 伝染性紅斑 (りんご病)	4~14日	飛沫感染	・軽い風邪症状を示した後、頬が赤くなり手足に網目状の紅斑が出現する。稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫が起こることがある。	風邪症状発現から顔に発疹が出現するまで	主要症状が回復した後
18 突発性発疹	9~10日	飛沫感染 接触感染 経口感染	・38度以上の高熱(生まれて初めての高熱であることが多い)が3~4日間続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発疹が出現する。	発熱中は感染力がある。	主要症状が回復した後
19 伝染性膿痂疹 (とびひ)	2~10日	接触感染	・湿疹や虫刺され痕を搔爬した部に細菌感染を起こし、びらんや水泡が発生し、破れてただれ、かさぶたをつくる。	水泡消滅まで	皮疹がかんそうしているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること
20 ヒトメタニューモウイルス感染症	3~5日	飛沫感染 接触感染	・通常は咳、鼻水、熱などの風邪の症状で終わりますが、一部の子どもでは細気管支炎、気管支喘息の悪化、クループ様の症状を呈する。	通常7~14日間	主要症状が回復した後
21 カンピロバクター感染症	2~7日	接触感染	・腹痛、下痢、嘔吐、発熱を主な症状としてまれに血便を生じることもあります。 ・通常は2~5日で回復しますが、再発することもあります。	通常10日間	主要症状が回復した後

※これ以外の疾患もありますが、主なものをあげてみました。

学校保健法で定められた病気や法定伝染病により、病院やご家庭で治療・休養を必要とする場合は、出席停止扱いとなり、欠席にはなりません。

※病気が治って登園するときは、「登園許可証」を医師に記入してもらい、「感染症届」は保護者が記入して、担任へ提出して下さい。

※尚、他の園児へ伝染させない為、又余病を防止する為にも、保育園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮下さい。